

文化財センター通信

【かざぐるま】

風車

第 26 号

平成18年 8月26日発行



紀州の歴史と文化の風

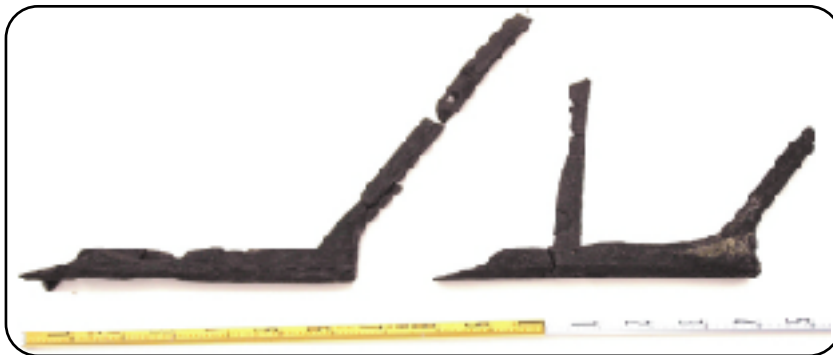
財団法人 和歌山県文化財センター

平安時代の

県内初 犁 出土!

からすき

野田地区遺跡
(有田川町)

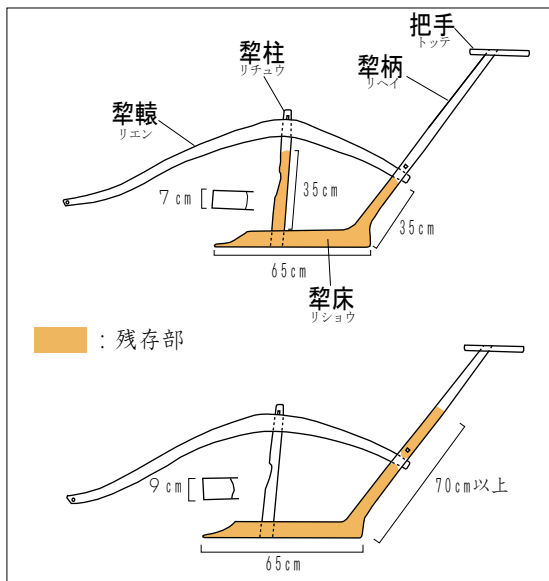


文化財センターでは西日本高速道路株式会社より委託を受けて、高速道路の拡幅工事部分（吉備より北側）において、今年5月～7月にかけて有田川町野田に所在する野田地区遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、平安時代中期の溝からは犁が2点出土しました。この溝はほぼ南北方向に延び、幅約6m、深さ約1mで、調査区内で長さ約12mを確認しています。犁2点は溝の底付近で約3mの間隔をあけて出土しました。一緒に出土した土器からこれらは11世紀前半代のものであると考えられます。犁は戦後、耕運機が普及するまで使われていた田を耕す道具で、古代よりほとんど形を変えずに伝わっています。野田地区遺跡から出土した犁は2点とも犁床と犁柄を一木で作り出した長床犁で、鉄製の犁先と犁へらを装着して使ったものです。犁先の形態などから掘り起こした土は進行方向に向かって左側

文化財センターでは西日本高速道路株式会社より委託を受けて、高速道路の拡幅工事部分（吉備より北側）において、今年5月～7月にかけて有田川町野田に所在する野田地区遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、平安時代中期の溝からは犁が2点出土しました。この溝はほぼ南北方向に延び、幅約6m、深さ約1mで、調査区内で長さ約12mを確認しています。犁2点は溝の底付近で約3mの間隔をあけて出土しました。一緒に出土した土器からこれらは11世紀前半代のものであると考えられます。犁は戦後、耕運機が普及するまで使われていた田を耕す道具で、古代よりほとんど形を変えずに伝わっています。野田地区遺跡から出土した犁は2点とも犁床と犁柄を一木で作り出した長床犁で、鉄製の犁先と犁へらを装着して使ったものです。犁先の形態などから掘り起こした土は進行方向に向かって左側



野田地区遺跡出土 犁の略図

に耕耘したことが分かります。古代中世にかけての犁は、西日本を中心にこれまでに十数例確認されていますが、県下では初の出土となります。

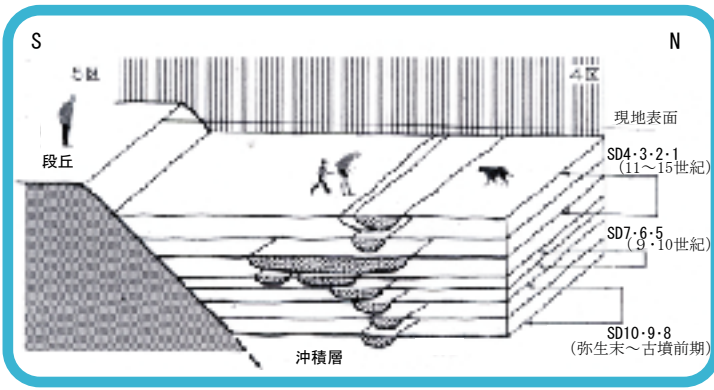
(川崎雅史)

— 第26号の主な内容 —

1. 野田地区遺跡出土の犁
2. 野田地区遺跡
発掘調査の概要
3. 野田地区遺跡
発掘調査報告会
4. 考古学基礎講座の報告
5. 「第16回 文化財センター速報展—紀州の歩み—」

野田地区遺跡 発掘調査 の概要

発掘調査を実施した場所は河岸段丘上から沖積地にかけての部分で、微高地となる河岸段丘上(Ⅱ区)では弥生時代後期の竪穴住居や鎌倉時代の溝などを検出しました。



野田地区遺跡の溝群模式図

最も北側の調査区のⅠ区は段丘に接する沖積地で、古墳時代前期や平安時代から室町時代にかけての溝を6条検出しました。これらは標高10m～12.4mまでの間を流れては埋まり、流れては埋まりしていたもので、江戸時代以降、この場所は水田となつていきます。現在の地面は標高約13.8mで、古墳時代から現在までは実に4mの堆積があつたことになりました。低湿地にある溝と言うこともあつて遺物が密封された状態になつており、面積が約92㎡と狭いにもかかわらず残りの良い土器類や木製品が多量に出土しました。ちょうど昔のタイムカプセルと言えるでしょう。

この遺跡はかつて高速道路建設に伴い1980年度に調査され、遺跡の性格を把握する多くの資料が見つかりました。この調査では沖積地で複数の溝(古墳時代前期3条、平安時代4条、鎌倉時代2条、室町時代1条)が検出され、特筆すべき遺物として古墳時代前期の陶質土器や建築部材、平安時代の祭祀に使った人形や斎串、鎌倉時代の仏教関係遺物である笹塔婆や位牌などがあります。



弥生時代の竪穴住居

今年度のⅠ区は1980年度調査区の東に接し、前回検出した10条の溝の延長部分に相当し、ほぼ1箇所すべての溝が重なっています。今回検出した溝の内訳は室町時代1条、鎌倉時代2条、平安時代2条、古墳時代1条です。このうち現在の地面より2.5m下で見つかった平安時代中期の溝からは1頁目で紹介した犁が2点出土しました。この溝はほぼ南北方向に延び、幅が約6m、深さが約1mで、調査区内で長さ約12mを確認しています。

犁の他に、古墳時代前期の溝からは建築部材や机や椅子の部材などが多くの土器とともに出土しています。



古墳時代前期の建築部材

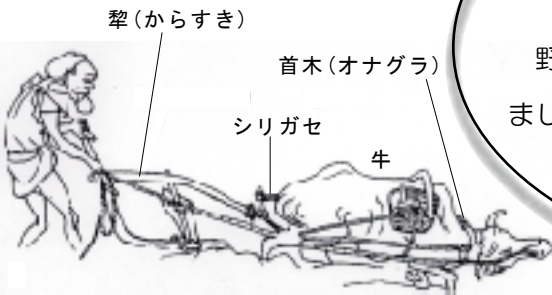
出土する遺物から周辺に存在した集落の様相をうかがうと、古墳時代前期や平安時代は一般の農村集落ではなく、有力者が近くに住んでいたことが想像できます。平安時代の人形の出土は、近くに都と直結した人物がいたことをうかがうものです。古代の文書から9世紀には当地に郡司として「紀」を姓にもつ人物がいたことが分かっており、同じ文書に「野田大溝」の地名もでてくることなどからも関連が注目されます。

鎌倉時代の末頃には仏教関係の遺物が出土するなど、野田の宝篋印塔や観音寺との関係を想定することができます。

(川崎雅史)

野田地区遺跡 発掘調査報告会

大津市聖衆来迎寺所蔵
『六道絵』犁耕図より
(一部加筆)



8月5日(土) きびドーム(有田川町)において、野田地区遺跡の発掘調査成果報告と犁の展示解説をおこないました。当日は45名もの熱心な方々にお越しいただいて盛況のうちに無事報告会を終えることができました。

県内で初めて犁が出土した野田地区遺跡の発掘調査報告会は、8月5日(土曜日)に有田川町下津野にある「きびドーム」に於いて有田川町教育委員会後援で開催されました。

犁出土のニュースは3日の朝刊に載り、報告会の開催についても新聞等によって周知されていたこともあって、町内以外にも周辺市町村や遠くは大阪府からの来場者もあり、会場がほぼ満席となる45名の参加がありました。

まず、渋谷埋蔵文化財課長がセンターの事業紹介や有田川町の歴史や発掘調査の意義と発掘で得られた資料の活用方法などについて説明しました。それを受けて佐伯主任・川崎技師が野田地区遺跡発掘調査の概要と犁についてレジュメを用いて報告をおこない、その後プロジェクトを使って野田地区遺跡で見つかった遺構や遺物の画像説明をおこないました。

質疑応答に引き続き、野田地区遺跡から出土した瓦器碗や黒色土器碗を参加者が実際に手にとり感触を味わってもらいました。ガラス越しに遺物を見るのではなく、肌に触れて目の前で見ることによって随分土器に対するイメージも変わる



報告会の会場風景

ったようで、碗の内面に施された暗文を見て「これはどういう意味があるの?」とか「これで本当に御飯を食べたの?」と言うような質問がどんとどんと飛び出してきました。

最後に出土した犁を披露して、構造などについて説明をおこないました。犁は戦後耕運機が普及するまで使われていたこともあって、年配の方の中には実際に使ったことがある人が何人か居られました。民具の犁も「紀伊風土記の丘」から借用して展示していたので、その具体的な使い方や犁及び犁とともに使われる「オナグラ」や「シリガイ」がどのよ



犁の展示解説風景

うな木で作られているかと言うことを教えて頂きました。古代の犁を見た印象としては、「小さい」と言う人が多く、またほとんどの人は「腐らずによく残ったものだ」と感激していました。

報告会が終わった後、今から約25年前に行われた野田地区遺跡や同じ町内にある田殿尾中遺跡の現地説明会の写真や当時作った現地説明会資料を持参した方にお会いしました。アルバムには克明に説明内容などが記入されており、一般の方々に遺跡の内容を知ってもらうためにも現地説明会や今回の報告会などの普及活動が如何に大事であるかと言うことを再認識しました。

(川崎雅史)

第1回考古学基礎講座

～サヌカイトによる石器づくり～ 平成18年7月2日(日)開催



作業前の説明です



原石を打ち割っています



慎重に作っています



石器づくりに夢中です



鹿角で形を整えています



完成した石器(石鏃)です

第1回考古学基礎講座「サヌカイトによる石器づくり」を開催し、10名の参加者がありました。ほとんどの方がはじめての石器づくりでしたが、皆さん時間を忘れるほど熱中して石器を作っていました。サヌカイト（讃岐石）とは、大阪府・奈良県境の二上山や香川県山などに産出する石材で、旧石器時代〜弥生時代にかけて瀬戸内から近畿を中心に石器の石材として利用されてきました。今回は、昔の人たちがおこなったように、礫でサヌカイト原石を打ち割った後、鹿角の先などで石器の形に仕上げていきました。最後に参加者に感想を聞いたところ、「昔の人たちと同様な作業をして石器を仕上げられて良かった。」「石器づくりに夢中になれました。」「初めての石器づくり楽しかったです。」「昔の人たちの石器づくりを学び、石器づくりの楽しさや難しさを実感することができたようです。（仲原知之）

弥生時代の終焉 旧吉備中学校校庭遺跡発掘調査成果報告会

日時：平成18年9月23日(土)午後1時から

主催：(財)和歌山県文化財センター

場所：きびドーム(有田郡有田川町下津野2021 電話0737-52-8002)

共催：有田川町教育委員会

講演内容：司会 有田川町教育委員会 川口修実氏

- 13：00～13：10 開催の挨拶 (財)和歌山県文化財センター専務理事 松田長次郎
- 13：10～13：50 「有田地方の地形」和歌山県教育センター学びの丘所長 吉松敏隆氏
- 13：50～14：30 「遺跡があるわけ」県教育委員会文化遺産課課長 藤井保夫氏
- 14：30～14：40 (休憩) 展示遺物解説
- 14：40～15：20 「旧吉備中学校校庭遺跡発掘調査成果」(財)和歌山県文化財センター 佐々木宏治
- 15：20～16：00 「弥生から古墳社会への変革」奈良女子大学文学部講師 坪之内 徹氏
- 16：00～16：30 講演者討論
- 16：30～16：40 閉会の挨拶 有田川町教育委員会 教育長 楠木茂氏

風車 第26号

平成18年8月26日 発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel：073(433)3843

Fax：073(425)4595

e-mail：maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp

《編集後記》今年度も各発掘調査現場で、新しい調査成果が明らかになってきました。これからもその成果を風車に乗せてお届けしていきたいと思っております。（仲原）

